

(同書簡の原文はインドネシア語。以下、WALHIによる英訳を和訳。)

2017年8月7日 (ムカルサリ村にて)

バンドウン市カラウィタン通り 32 番
インドネシア国有電力会社 (PLN)
UIP 中ジャワ 1 所長 殿

拝啓

インDRAMAYU石炭火力発電事業・拡張計画の影響を受けるムカルサリ村、パトロール・ロー村 (訳者注: 住民の呼称ではパトロール・バル村を含む)、スムラドゥム村、テガル・タマン村、ウジュン・グバン村の農民と漁民のコミュニティからなる私たち JATAYU (Jaringan Tanpa Asap Batubara Indramayu: インDRAMAYUから石炭の煙をなくすためのネットワーク) は、本書簡で幾つかの事項を伝えたい。特にムカルサリ村に暮らし、生計を立ててきた私たち住民は、拡張計画の建設の影響を感じている。

伝えたい事項は以下のとおりである:

1. 私たちは、以下の理由から、現在行なわれているアクセス道路の建設を停止するよう要求する。
 - 拡張計画に対する建設許可を依然取得していない一方で、アクセス道路事業は拡張計画の一部である。これは明らかな違反である。
 - 拡張計画の環境許認可は、裁判所で係争中であるため、司法手続きを尊重し、あらゆる事業活動が中止されるべきである。
2. 2017年6月と7月、PLNのチームと村の役人らが家毎にやって来て、住民が拡張計画に同意するよう、生計手段を申し出て誘惑した。住民はまた、ヤギやアヒルも申し出られた。住民は署名を迫られた。読み書きや署名ができない住民は拇印を強要された。PLNチームからは用途や目的に関する説明はなかった。理解できない住民も説明を受けなかった。理解できない住民は、彼らが同意したように見えるよう、パンフレットを持った姿の写真を頼まれた。それらは、PLNチームによる狡猾なやり口である。PLNはまた、住民が7月14日までに、最も直近では8月2日までに用紙を提出しない場合、同住民は石炭火力発電所の建設に同意したとみなされると脅した。私たちは、住民自身がその意味をわかっていない用紙に署名をするよう、PLNチームが住民を脅したと考えている。住民のなかには、白紙への署名を求められた者もいた。加えて、異なる用紙への署名を求められた住民もいる。(すでに PLN が) 購入した土地での作業禁止と刑罰の恐れを記した掲示版を立てたことは、私たちの意見では、PLNによる脅迫の類である。一方、それが唯一の私たちの生計手段であるため、私たちは作業を続けている。
3. 私たちの意見では、PLNは手続き違反をしている。なぜなら、土地収用計画がなんと土地収用の支払がなされた後に作成されているからである。まずは土地収用計画が先に作成され、その後に土地収用の支払がなされるべきである。PLNチームと村の役人らがパンフレットやコメント用紙(もし、それを特定の期日にしたがって提出しない場合には、同意とみなすと書かれたもの)を持って、やって来たことは証拠である。もう一つの証拠は、依然支払われていない地権者もいることである。
4. 実際に現場では、多くの小作が依然として作物補償を受け取っていない。さらに、村の(共有)地で耕作してきた農民もである。彼らは一切補償を受け取っていない。実際のところ、現在、同地は村の役人が耕作している。PLNは不安を引き起こし、人権を侵害している。

5. PLN は、水田に重度に依存している小作と農業労働者を見捨て、一切良心がない。PLN は、当初から小作や農業労働者と関係を一切持たず、地権者のみを招待した。しかし、事実上最も影響を受けるのが小作や農業労働者、そして、漁民であるということである。地権者は補償金が支払われる。しかし、私たち小作や農業労働者、小規模漁民は拡張計画のために生計手段を失うことになる。
6. 加えて、特にウジュン・グバン村とテガル・タマン村の漁民は、拡張計画の社会化のプロセスに一切含まれてこなかった。漁獲地域が拡張計画の水域も含んでいるにもかかわらずである。既存の発電所の際に立証された経験では、海底の土を測定するための竹の道具が海水のなかに多く残されたままとなっており、多くの漁網がひっかかってしまっている。既存の発電所からの廃水も、エビや魚の産卵地域を台無しにしてしまい、したがって、エビや魚の数が減少している。最後に、漁獲地域を遠くにしなくてはならず、(船の)燃料であるディーゼルの経費が膨らんでいる。
7. 私たちの先祖の時代から、私たち住民の技能は農業であることに留意してもらいたい。農業は、私たちの魂であり、精神であり、身体である。私たちの水田が拡張計画にとって代われ、失われれば、それは私たち人間をゆっくりと死に追いやると同じである。私たち農民が持っている専門知識が、他の仕事に簡単にとって代えられるものとは考えられない。ムカルサリ村、そして、その他の周辺の村々の私たちの先祖の時代から、ここは非常に生産性の高い食糧基地である。

最後に、ムカルサリ村における拡張計画はコミュニティーに喪失と影響をもたらしている。PLN によって実施されているプロセスは、最も影響を受ける農業労働者や小作、小規模漁民を除外した形の非常に不公平、かつ、閉ざされたものである。したがって、私たちは PLN に利益だけを考えるのではなく、良心をもって見てもらえるよう要請したい。生計手段を農業や漁業に依存する私たちのような小さい住民もまた、人間である。私たちを水田から追い出さないでいただきたい。私たちに発電所は必要ない。私たちに必要なのは水田であり、海である。

私たちはまた、私たちの村に石炭火力発電所を建設することを拒否しているムカルサリ村、パトロール・ロー村、スムラドゥム村、テガル・タマン村の農業労働者と小作から集めた署名も送付する。

以上、私たちが伝えたい事項である。政府と PLN が既存、および、拡張の発電所の影響を受ける住民の心からの叫びを理解し、聞いていただけるようお願いしたい。

敬具

JATAYU コーディネーター

(以下、コーディネーター3名の署名)

Cc:

1. PLN ジャカルタ本部